

討論型世論調査の手法を参考にした ALPS 処理水に関する討議 高専生を対象とした場の設計と実施

Discussion on ALPS Treated Water with Reference to the Method of Deliberative Poll
Design and Implementation of Forum for National Institute of Technology Students

*大場 恭子¹, 柳瀬 昇², 松井 亮太³

¹IAEA, ²日大, ³山梨県立大

福島第一原子力発電所事故の廃炉によって生じる ALPS 処理水について、討論型世論調査の手法を参考に、福島高専の生徒を対象とした討議の場（以下、「高専 DP」）を設計し、実施した。

キーワード：討論型世論調査, ALPS 処理水, 風評被害, 福島第一原子力発電所

1. 緒言

ALPS 処理水の取扱いについて、国は、2013 年以降、専門家委員会を設置し、技術的な観点だけでなく社会的な観点も含めて総合的に検討し、報告書を公表した。この報告書に対し、複数の福島県内の自治体や産業団体から、意見書が提出されている。他方、未来を担う若い世代が、本報告書や ALPS 処理水について、十分に理解し、考えているとは言い難い。そのため、本研究では、一般市民が特定のテーマについて議論する討議デモクラシーの手法のひとつである討論型世論調査（Deliberative Poll; DP）^[1]に注目し、その方法を参考に、福島高専の生徒を対象とした ALPS 処理水に関する討議の場を設計し、実施した。

2. 高専 DP の概要

2-1. 高専 DP の設計 DP の参加者が学びながら自ら考えることを重視し、高専生を対象にどのような方法が実施可能であるかを検討し、アンケート調査の回数や討論フォーラムの大枠を維持する形とした（図 1）。

2-2. DP との違い 本来の DP では、広く一般を対象に世論調査を行い、世論調査において自ら参加の意思表示をした中から討論フォーラムの参加者を選出する。しかし、高専 DP は、対象が高専生に限定されており、討論フォーラム参加者も本人の自由意思ではなく科目履修者が自動的に選定されることから、統計学的な代表制がなく、基本的属性も同じである等の違いがある。

2-3. 小グループ討論のテーマの設定 討論フォーラムでは、小グループ討論を 2 つ実施した。小グループ討論①は「ALPS 処理水をどうするかを自分たちが決めることになったら、どのような情報が必要か」「ALPS 処理水をどうするかを決めるにあたっては、どのような価値を重視するのか」「ALPS 処理水のような問題はだれがどのように決めるべきか」をテーマとした。小グループ討論②は「ALPS 処理水のあり方を考える上で風評被害をどう捉えるべきか」や「風評被害への対策」をテーマとした。

2-4. アンケート調査の実施 小グループ討論のテーマとリンクさせたアンケート調査票を作成した。t1 のみ 2 年生全員を対象とした。その後、討論フォーラム参加者のみに資料を配布し、t2 および t3 を実施した。

3. 結論

学会発表では、高専 DP の設計および実施に基づき、本手法の可能性について報告する。

参考文献

[1] 柳瀬昇：“熟慮と討議の民主主義理論——直接民主制は代議制を乗り越えられるか”，ミネルヴァ書房，2015

*Kyoko Oba¹, Noboru Yanase² and Ryota Matsui³

¹IAEA, ²Nihon Univ., ³Yamanashi Prefectural Univ.

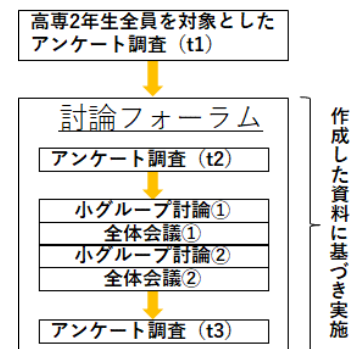


図 1 高専 DP の枠組